

令和7年7月22日(火)

保護者の皆様へ

キッズタウンむかいほら保育園
園長 飛弾 菜穂子

2024(令和6)年度東京都福祉サービス第三者評価の受審結果等について

日々の保育園運営にご理解、ご協力いただき大変ありがとうございます。

令和6年10月に実施致しました第三者評価の調査へのご協力ありがとうございました。東京都福祉サービス第三者評価の受審結果をいただきましたのでお知らせいたします。

第三者評価結果の詳細につきましては、キッズタウンむかいほら保育園のHP、東京福祉ナビゲーションHPで公表致します。また、当園の玄関内にも冊子でご用意致しますので合わせてご確認をお願い致します。評価の概要はつぎの通りです。当園として第三者評価を真摯に受け止め、今後の保育に生かし、保育サービスの資質向上につなげてまいります。

評価機関：特定非営利活動法人 市民シンクタンクひと・まち社

調査対象：キッズタウンむかいほら保育園(全園児105名 86世帯対象)

調査型式：調査票は、保育園を通して全世帯に配布。回答は郵送と回収箱にて評価機関が直接回収。

訪問調査は、評価機関が確認事項等をワークシートのまとめ事前に園に送付し回答を行い、当日は資料等を確認すると共に園長、副園長から説明を受けた。

評価結果報告書をまとめる合議は、担当評価者に他の評価者1名を加え客観性を高める。

1、全体の評価講評について

(1)特に良いと思う点

① 子育て支援事業「のびのびクラブ」を実施するなど地域の子育て支援に貢献している

園では園の機能や専門性を活かして地域の未就園児を持つ保護者に「のびのびクラブ」を週2回実施し、離乳食講座や絵本の読み聞かせなどの行事等に参加してもらい子育て支援をしている。保護者同士の情報交換の場となるようゆったりした雰囲気大切にしている。孤立している保護者が少しでも減るよう、保護者からの積極的な声掛けで参加者も増加している。また、地域に開かれた地域に愛される保育園として園周辺のごみ拾いや草むしりを行い、地域の小学生も参加しての行事、敬老の集いやお楽しみ会等地域の高齢者と交流し、地域貢献に努めている。

② 子どもの最善の利益を守る事、人権・人格を尊重する事を理念に掲げ保育を進めている

園は、「子どもの最善の利益を守り、一人ひとりの子どもの健全な心身の発達を図る」を理念として、子どもの視点に立ち、言葉・態度・仕草等での表現に共感した関りを大切にしている。日々の保育では、座る場所や散歩の際に誰と手を繋ぐか等は子ども自身が決めている。職員会議では、不適切保育について研修を行い、不適切保育とはどういうものが当てはまるのか、普段の保育での言葉遣いや行動が適切であるのかを話し合っている。「OK 言葉、NG 言葉、言葉の置き換えのマニュアル」を利用し、日々の保育実践に生かすようにしている。

③ 野菜の栽培やコメ作りの体験をして食について関心を高め今後の調理保育を楽しみにしている

3～5歳児は米や野菜を栽培し食について関心を高めるための取り組みを行っている。3歳児はナス・ピーマンを育て時間がたつと緑色から赤ピーマンに変化することを学んでいる。4歳児は大きくなり過ぎたオクラでスタンプ遊びをしている。5歳児はトウモロコシを育ててポップコーンを作り食べることができた。さ

らに米作りは子どもたちと土をつくることから始め、収穫・脱穀をして、おにぎりを作って食べることができた。田植え用の土を園の庭でねかせて、泥団子を作り、泥んこ遊びをして楽しんでいる。野菜のツルやわらでリースを作り飾っている。

(2)さらなる改善が望まれる点

① 事業計画に感染症対策や事故防止対策等のリスク管理について明示するとよい

園では「子どもの命を守るために」「チームで守る子どもの命」を合言葉に、怪我や食中毒等のようなリスクであっても、必ず職員同士で共有して細心の注意をはらい、保育を進めている。重大事故・マニュアルでは事故の発生原因を分析することが第一順位となっている。ヒヤリハットを報告しているが、件数や内容について集計されていないので、報告書をICT化し、報告とその分析が簡単にできるようにして事故防止に役立てるとよい。事業計画に事故防止対策等のリスク管理について記述し、子どもの身体生命の安全確保対策を明示するとよい。

<改善計画・実施状況>

- ・ 感染症対策は「感染症対策 BCP 計画」として、事故防止対策は「保育安全計画」として、それぞれ別計画をたてて実施している。
- ・ 毎年作成している年度・事業計画は、これらの計画も視野に入れて作成すべきであると捉え、令和7年度中に内容を園全体で精査し、令和8年度・事業計画から位置付ける。
- ・ ヒヤリハットについては、ICTを活用し全職員がいつでも記入でき、月ごとに集計できるように4月より変更し、改善した。

② 目標を具体的にどの様に実践し実現するかを盛り込んだ事業計画にするとよい

園では、令和5年度に策定した中期計画(10年先を目標)を基本に毎年の事業計画を策定し、保育理念や保育目標の実現に取り組んでいる。中期計画の中には「互恵互助」の理念を基本にした地域に開かれた「保育園児との高齢者・障害者等とのごちゃまぜ保育」の促進等を示している。事業計画には保育理念・目標・保育方針、保育の標準化等の重点事業等が示されている。しかし、事業計画としては具体性に欠けるので、今後は事業計画に示された方針に基づき目標を具体的に誰がどのようにして実践し実現するかを盛り込んだ計画にするとよい。

<改善計画・実施状況>

- ・ 令和7年度の事業計画や部門目標では、項目ごとに目標を具体的に設定し、振り返りながら推進中。
- ・ ごちゃまぜ保育、近隣保育園との交流を毎月一回以上実施中。
- ・ 児童発達支援事業所の開設に向け、法人内「児童発達支援ぱれっと」への研修を全職員で実施中。

③ 園ではマニュアルを整備して、サービスの見直しを定期的に行っている

法人全体で統一した内容の手引き書「標準化」が作成されており、職員全員が所持し、必要に応じていつでも確認出来るようにしており、添付されている「ふり返しシート」を利用し各自で業務の見直しをしている。年度初めの職員会議では大切にしたい考え・保育の姿勢を説明し職員全体で手順の確認を行った。門のカギについては壊れた箇所を修繕して安全面に配慮したが、パスワード設定の定期的変更等、改善の余地もあるので検討するとよい。

<改善計画・実施状況>

- ・ 門のパスワードの変更は4月に実施済。今後は年度ごとの変更を行い、安全性を高める。
- ・ 園内の修繕が必要な箇所を計画的に改善し、安全な環境作りを進める。